

# JICA保健医療タスクニュースレター 「保健だより」第28号

2012年7月10日発行



## 「非感染性疾患対策の開発援助に関する調査研究」報告

世界各国において、循環器疾患、がん、糖尿病、慢性呼吸器疾患の四大疾患を含む非感染性疾患(Non-Communicable Diseases:NCDs)による負荷は増大し続けており、主要な死亡原因となっています。WHOによると、2008年には世界の全死亡数の63%に該当する3,600万人がNCDsによる死亡と推測されており、そのうち約80%が開発途上国における死亡と言われています。このような状況をふまえ、2011年9月には国連ハイレベル会合においてNCDsに関する政治宣言が採択されました。同宣言では、NCDs対策の重要性が述べられるとともに、援助機関等に対し各国が実施するNCDs対策への支援を求めています。

こうした流れを受け、人間開発部では同分野におけるこれまでのJICAの協力実績をとりまとめ、上述の政治宣言への対応や国際保健政策や戦略検討に有益な基礎情報を整理するための調査を実施しました。現在、報告書を取りまとめており、完成後はナレッジサイト等での共有を予定しています。以下、調査結果の概要をご報告します。

### 《1. 疾病の世界的状況》

中所得国、中進国、高所得国ではNCDsによる死亡が最も多い。地域別ではアフリカ地域を除く全地域において死因の1位はNCDsであり、疾病構造の転換が生じている。

### 《2. JICAの協力実績》

JICAが実施したNCDs対策案件は計131件あり、その53%が中南米地域で実施されている。また、JICAの取り組みは現場レベルの個別具体的な取り組みから国家政策支援にも着手しつつある段階である。

### 《3. 他ドナーの動向》

国際的な取り組みはWHOを中心に進められており、世界銀行もNCDsに関する調査研究や文書を発行している。但し、USAIDはNCDsに対応していく方針を公式に発表しているものの、同分野を他の保健課題への取り組み成果を向上させる補完的なものとして位置付け、特別な予算は設定していない。

### 《4. まとめ》

本調査結果を踏まえると、NCDsに対する各国からの支援要請は今後増加することが予想される。一方、多くの開発途上国や援助機関においてMDGs達成が当面の最優先課題であることや、縦割りプログラム乱立の弊害などに配慮する必要がある。これらを踏まえれば、課題別研修の戦略的な活用、実施中協力のスコープ拡充やコンポーネントの追加、また保健システム強化の枠組みでの支援などの取り組みは実現可能性が高いと思われる。

本報告書が今後のNCDs対策への支援を検討する際の一助になれば幸いです。

(保健第四課 籠田)

「非感染性疾患  
対策の開発援助に  
関する調査研究」

エチオピア国「アムハラ  
州感染症対策強化戦略  
的プロジェクト」紹介

出張報告  
Child Survival:  
Call to Action,  
GAVI理事会へ

世界保健総会  
報告について

ガーナにおける  
栄養改善への  
取り組み紹介

パシフィック・  
ヘルス・サミット

お知らせ  
イベント情報

## 世界保健総会報告について



5月21日(月)～5月26日(土)まで、スイスのジュネーブで行われた第65回世界保健総会(World Health Assembly: WHA)に、WHO加盟194か国・地域や市民社会組織からの代表者が参加する中、日本政府代表団の一員としてJICAからも参加しました。

WHAでは、世界の保健医療の課題や各国の取り組み状況を共有し、重要な政策決定を行うとともに、WHOの事業計画、予算などの決定を行います。今次WHAでは、マーガレット・チャン事務局長の再選、WHO改革などWHO運営に関する事項のほか、技術議題として、非感染性疾患(NCDs)の予防とコントロール、研究開発にかかる専門家ワーキンググループ(CEWG)、栄養などに関する現状と今後の対策についてなどの決議がなされました。

決議結果はWHOサイト([http://apps.who.int/gb/e/e\\_wha65.html](http://apps.who.int/gb/e/e_wha65.html))に掲載されています。

ポリオ、栄養、住血吸虫症といった従来からの課題に加えて、非感染性疾患、精神疾患、健康の社会規定因子(Social Determinants of Health)などの議論に関し、開発途上国からも盛んに意見がされていました。決議には各国政府が行うべき方策が規定されていますので、各国で話題となっている事項について確認されると良いと思われれます。



技術議題の会議場風景

(保健第四課 平岡)

## エチオピア国「アムハラ州感染症対策強化 戦略的プロジェクト」紹介



エチオピアのアムハラ州では、2008年1月から2013年1月までの5年間の予定で、『アムハラ州感染症対策強化プロジェクト』を実施しています。感染症の案件では、三大感染症対策の案件が多くありますが、本プロジェクトでは三大感染症に限定せず、サーベイランス(疾病情報収集)のシステムそのものの確立を支援しているところが大変ユニークです。具体的には、1)ヘルスセンターや末端の保健施設で村に1つあるヘルスポストといった施設を基点としたサーベイランスシステムの強化、2)村(ケベレ)のボランティアであるケベレ監視員(Kebele Surveillance Officer: KSO)を活用しつつ進めているコミュニティを基点としたサーベイランスシステムの強化、をアムハラ州の3県の対象郡(施設については22郡、コミュニティについては2郡)で進めています。2010年10月の中間レビューでは、サーベイランス情報を収集して村から郡、県、州と上げていっても、それに対する対応がとられなければ、システムを持続させることはできないという判断から、レスポンス活動(感染症発生の情報を受けて行うアクションとして、薬やワクチンやメディカルサプライの提供などを含むもの)と、収集したサーベイランス情報を州から県、郡、村・ヘルスポストに戻すフィードバック活動を追加しました。加えて、バラバラに進みがちだった施設ベースのサーベイランスとコミュニティベースのサーベイランスをつなぐための連携活動、具体的にはヘルスセンターを核とするクラスターミーティング強化活動による取り組みも追加しました。

今回、プロジェクト終了を8か月後に控え、5月に終了時評価を実施しました。ここでは、施設を基点としたサーベイランスシステムについては、ヘルスセンターから郡、県に至る報告率が着実に改善していること、コミュニティを基点としたサーベイランスシステムについては、KSOへの研修の実施、KSOが使用する報告カード(緊急報告が必要な疾患が疑われる場合のエマージェンシーカード、マラリアなど医療施設への照会が必要な疾患が疑われ



エビナット郡クラスターミーティング

る場合のリファラルカード、ゼロ報告カードの3種類)の導入などを通じて、KOSIによる患者の早期発見・報告が技術的・組織的に可能であることが示されたと評価されました。プロジェクトでは、施設に関してはデータ集計と分析のための2つの表の導入、上述のKSOの報告カード、ヘルスポストの保健普及員(Health Extension Worker: HEW)がヘルスセンターへのリファール時に用いるリファラルペーパー、行政官・ヘルスセンターの医療従事者・HEW・KSO向けの各種研修教材等を作っていますが、エチオピアの政策の変化や実情に合わせて、柔軟に適用している点も特筆されます。他方で、特に中間レビュー時に追加した活動として定期的なサーベイランス情報のフィードバックやレスポンスプロトコルの整備、加えて機能的なサーベイランス/レスポンスシステムの構築には一定の期間が必要であるため、プロジェクト期間の延長を提言しています。レスポンス活動については、情報のフィードバック強化、より優先度の高い狂犬病と炭疽病のレスポンスプロトコルの整備、ヘルスセンター検査室の強化を中心に取り組んでいます。終了時評価では、実施機関であるアムハラ州保健局のオーナーシップの高さが強く印象に残りました。さまざまな課題もありますが、本プロジェクトがさらに発展していくよう、専門家、エチオピア事務所、本部で協力して進めていきたいと考えています。(保健第一課 高橋)

## ガーナにおける栄養改善への取り組み紹介



ガーナでは、BOPビジネス連携促進制度を活用して、(株)味の素による協力準備調査(2011年3月-2014年3月)をJICA民間連携室主導のもと実施されています。

(株)味の素は、2009年よりガーナにおける伝統的離乳食“KOKO”(発酵コーンを用いたお粥)に添加する栄養サプリメント「KOKO Plus」(現地産の大豆を主原料に、ビタミンなど微量栄養素や必須アミノ酸であるリジン等を添加したもの)の開発を行ってきました。そして先日5月30日、JICA-USAID-(株)味の素の3者にて覚書を締結し、下表のとおりガーナにおける離乳期の子供の栄養改善に取り組むことを確認しました。

USAID	JICA	味の素(株)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● GDA* スキームを通じて、以下の項目を実施</li> <li>● 栄養サプリメントの普及促進</li> <li>● 流通モデル構築のための調査に資金およびノウハウを提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協力準備調査(BOPビジネス連携促進)を通じ、以下の項目を継続支援</li> <li>● 市場調査</li> <li>● 製品開発にかかわる調査</li> <li>● ビジネスモデル策定</li> <li>● 事業計画の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2009年よりガーナ大学およびINFと共同で栄養サプリメントを開発</li> <li>● 現地食品会社への技術移転による商品サンプルの生産</li> <li>● 栄養サプリメントの商品化と事業計画の策定</li> </ul>

\* GDA…Global Development Alliance (GDA) は、USAIDが設立した官民連携機構で、開発途上国における社会経済状況改善のためのプロジェクトを民間セクターと協働で実施。

USAIDの資金援助は官民連携のスキームであるGDAに基づいて行われます。日本企業がアメリカ政府機関であるUSAIDと共同でGDAのスキームに基づいた取り組みを行うのは今回が初で、またJICAを含めた3者が官民連携に関する覚書を締結するのも初のケースになります。

多くの開発途上国において、離乳期の栄養不足による成長不良(低身長、低体重)は深刻な問題です。本プロジェクトでは今後、前述3者およびプロジェクトに参画する様々なステークホルダー(大学、NGOなど)との連携により、持続可能なビジネスを通じたガーナの子供たちの栄養改善の実現を目指します。



ガーナの伝統的離乳食“Koko”の調理風景

“Koko”を子供に与える女性

「Koko Plus」

## 出張報告～Child Survival: Call to Action、GAVI理事会～

6月12日より15日にかけて、Child Survival: Call to ActionとGAVI理事会がワシントンで開催されました。以下、2つの国際会議について簡単にご報告させていただきます。

### Child Survival: Call to Action<sup>1</sup>

2035年までに5歳未満児死亡率(U5MR)を20(出生1,000対)に削減することを目標とし、その共通目標達成に向けて、各国政府及びパートナーのコミット取付けを意図し開催されました。また、その新目標達成のためには、サブサハラアフリカにおいて年率5-9%のU5MR減少率を増加する必要(=過去の2-3倍の減少率)があること、またそれは実際に成功例もあり可能であること(ルワンダの例:6.6% 2000-2010)が示されました。

2010年現在、146か国中43か国ですでにこの目標を達成していますが、国内格差は正に取り組むべき(=途上国の貧困層が先進国の貧困層よりも18倍死亡しやすい)であること、対象を絞った介入(=新生児、都市貧困層など)、より包括的な介入(=女児の教育、家族計画)が必要であることが強調されました。

会合は2日間で、一日目は政治会合、二日目が技術会合が行われ、80か国以上から750人が参加し、その中には50人の各国保健大臣が含まれていました。本会合中に死亡率削減に向けて母子保健に取り組む旨の誓約(Pledge)署名式がエチオピア、インドの保健大臣により行われ、全体では50か国以上の政府及びCSOにより署名が行われました。また、初日には、国務長官ヒラリー・クリントン氏によるスピーチも行われ、U5MRについて、低所得国と先進国の子どもとの間で差が大きく、このままの減少率であれば、低所得国と先進国間のU5MRの地域差が縮まるまでには100年かかることに言及し、さらなる介入の必要性を強調しました。また、JICAは本会議をリードしたUSAIDに協力し、作業委員会に参加するとともに会議の中1つセッションのモデレーターも務めました。今後のフォローにも協力していく予定です。

### GAVIアライアンス(以下、GAVI)理事会<sup>2</sup>

GAVIは、開発途上国において予防接種へのアクセスを向上することによって子どもの命と人々の健康を守ることを使命とし、予防接種(ワクチンと保健システム強化)のための資金供給を行うことを目的とし2000年に設立された官民パートナーシップです。今回は、400万人の子どもを救うために2015年までに2億5000万人の子どもにワクチンを提供することを誓約した2011年の誓約式からの進捗状況確認及び諸議題の決議を行いました。また、Child Survival会合に合わせて本理事会を開催することにより、予防接種の重要性をアピールする形となりました。(保健第三課 酒井)

<sup>1</sup> Child Survivalは1980年代にUSAIDとUNICEFにより設定されてきた子どものための保健プログラム名でもある。

<sup>2</sup> GAVIアライアンスホームページ: <http://www.gavialliance.org/>

## —パシフィック・ヘルス・サミット—

～毎年6月は保健分野の産学官関係者がシアトルかロンドンに集合～

パシフィック・ヘルス・サミットは「科学、産業、政策の連携を通じて、現在よりも健康な世界を目指す」ことをミッションに、2005年にシアトルで開催されたことを皮切りに、毎年6月に行われる国際保健に携わる関係者の集いです。当初はアジア、大洋州地域から国際保健に関わる問題解決の糸口を見出したい、という願いも込めて「Pacific Health Summit」と名付けられましたが、近年はこれらの地域以外からも複数の参加者がみられています。また、去年はシアトル、今年もロンドンで開催され、近年は隔年でこの両都市で行われています。東城は去年、そして今年とサミットに出席する機会を有しました。

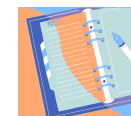
サミットでは毎年、テーマが定められ、数名のパネリストからの発言、そして参加者を交えた議論が行われます。ちなみに去年は「ワクチン」、そして今年には「保健分野の技術(注:薬、ワクチン、IT等)及びその革新を巡る課題」がテーマになりました。

また、出席者ですが、被援助国関係者、民間財団を含むドナー、国際機関、民間企業、研究機関、NGO等から約200名が参加しました。今年のサミットでは、技術の革新を進めていく上での重要な課題として「官民連携を適切に図りつつ進めていくこと」、「住民に着実に技術が行き渡るように留意すること」、「技術を活用する際のコストが適価に収まるよう調整が進められること」、「医師のみならず保健医療活動に従事する人々が活用できる技術であること」といった様々な意見及び問題提起がありました。

サミットは議論を行う場としての機能のみならず、参加する関係者間の人脈形成の機会を提供する役割も果たしています。今回、東城はアジア地域からの出席者数名とともに、DSMという民間企業(注:同社は栄養価の高い米の開発及び普及に取り組んでいます。)から栄養面に係る研究及び活動状況について話を聞く機会がありました。サミットのプログラムの中では「官民連携の重要性」という切り口から様々な関係者が意見を述べていたのですが、実際に企業関係者との対話を行うことにより、保健分野における民間の方々との連携、さらに栄養分野における支援の検討等が今後益々重要になっていくとあらためて思われました。

保健分野を巡っては、これからも様々な産学官の関係者が課題克服に向けて連携を図りつつ取り組んでいくと思われませんが、パシフィック・ヘルス・サミットの役割は、関係者間の最新の情報共有及び人脈形成の促進等の観点から今後も貴重な機会になると感じました。(人間開発部 次長(計画・調整)東城)

2012年広報タスクチームが始動しました。次長を筆頭に新人職員までメンバーは多彩な顔ぶれです。本年度は、興味深い取り組みを実施しているプロジェクトの紹介や国際会議で取り上げられた話題の紹介に加え、保健プロジェクトに関する情報がより入手しやすくなるような仕組みの改善等をするべく只今検討を進めています。皆様にとって少しでも有益な情報を提供できますよう、広報チーム一同、一丸となって取り組んで参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。次回(保健第一課 岡本)の保健だよりは2012年9月に発行予定です。





2012年7月時点

## 主な国際会議等イベント紹介

### 2012年

#### 7月

- 1 日本国際保健医療学会ポストMDGsについて NCGM
- 4-6  第6回保健大臣－財務大臣会合 チュニス
- 29  結核国際研修50周年記念シンポジウム 東京

#### 9月

- 3-5  Asia-Pacific Development Summit:Public-Private Partnerships to Close Regional Health MDG Gaps ジャカルタ  
インドネシア、カンボジア、ゲイツ財団共催
- 6-8  保健と人間の安全保障セミナー リマ


#### 10月

- 12-14  IMF・世銀年次総会 東京  
[\(http://www.imf-wb.2012tokyo.mof.go.jp/\)](http://www.imf-wb.2012tokyo.mof.go.jp/)
- 22-26  第8回母子手帳国際会議 ナイロビ

#### 11月


- 3-4  第27回日本国際保健医療学会 岡山

#### 12月



- TBA GFATM第27回理事会 未定
- 上旬  第7回HHA地域事務所長会合 バングラデシュ

### 2013年

#### 1月

- TBA  PMAC 2013 バンコク  
Theme: "A world united against infectious diseases: cross-sectral solutions"  
[\(http://www.pmaconference.mahidol.ac.th/\)](http://www.pmaconference.mahidol.ac.th/)

#### 未定

-  保健エキスパート会合 インドネシア
-  WHO/WPRO定期協議 東京